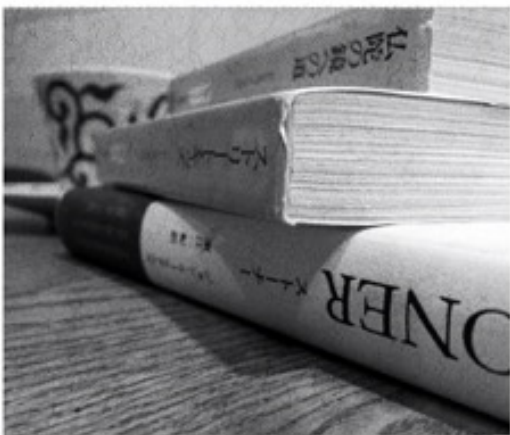


ことばの魔術師

翻訳家・東江一紀の世界

あがりえかずき



あがりえかすき
東江一紀 年譜

年度	年齢	
1951.9.6		9月6日、長崎県で生まれる。
1957～63		小学生時代に筑摩書房の日本文学全集の3分の1を読破。
1966～69		琉球政府立那覇高校入学。本格的に陸上を始める。
1969～76		沖縄からの国費留学生として北海道大学文学部英文科に入学。北大では陸上に情熱をかたむけ、学生生活を7年間送る。卒論は、「人がやらないから」サミュエル・ベケット。
1976		大学卒業と同時に、翻訳の通信講座を受講し始める。
1977～79.2		印刷所でアルバイトをしながら、千駄ヶ谷の国立競技場で練習を続ける日々を送る。専門は走幅跳。
1979	27歳	あるアスレチック・クラブに声をかけられ、入部するも、その翌日、ライトバンにひかれ、右足を複雑骨折。陸上競技を断念する。
1979～81ごろ	28～30歳	"友人"に下訳を紹介してもらい、翻訳の仕事始める。だが師匠が下訳料を払ってくれず、2年間で約8,000枚を訳してもらった下訳料は合計で13万5000円だった。そうした中で、下訳を紹介してくれた友人、衿子さんと結婚。
1981～82ごろ	30～31歳	タトル・モリ エイジェンシーのリーダーになり、半年ほど原書のリーディングを続けたのち、新潮文庫、集英社2冊、サンリオ、産経出版とつぎつぎに仕事が決まる。半年ですべてを訳し上げる。
1983	32歳	ローズマリー・ロジャーズ『ラブ・ジャングル』（サンリオ）で訳書デビュー。このあと立て続けに訳書が刊行されるようになる。
1988	37歳	フランクフルト・ブックフェアへ。初の洋行。
1990	39歳	翻訳学校フェロー・アカデミーで講師を務め始める。
1994	43歳	翻訳学校ユニ・カレッジで講師を務め始める。
1995	44歳	リチャード・ノース・バタースン『罪の段階』（新潮社）刊行。
1996	45歳	『自由への長い道 ネルソン・マンデラ自伝』（NHK出版）で日本翻訳文化賞を受賞。
1997	46歳	公団住宅から町田市能ヶ谷の一戸建て（賃貸）に転居。
1998.10.8	47歳	小学校3年時にファンになった横浜ベイスターズが、38年ぶりのリーグ優勝。「いつか花咲くときが来る（こともある）」と、しばし喜びにひたる。このあとベイスターズは日本シリーズでも優勝。日本一になる。

翻訳家、東江一紀は、2014年6月21日に62歳の若さでこの世を去りました。

もっともっと、訳してほしい本がたくさんあった……。

そんな残念な思いはいまだに消えませんが、ふりかえればそこには、東江さんの遺した豊饒なる訳書の海があります。

そう、わたしたちはまだ、東江一紀を知り尽くしてはいない。

自分たちも含め、もっと多くの人に、もっと多くの訳書を読んでほしい。

そう思って今回、「ことばの魔術師 翻訳家・東江一紀の世界」と題するブックフェアを開催することにいたしました。

この小冊子では、東江一紀の世界をより身近に感じていただけるよう、簡単な年譜、膨大な数の訳書のリスト、原文つきの名訳集、愛書家たちによるベスト本と追悼コメントをご紹介します。ごゆっくりお楽しみください。



2001	50 歳	「楡井浩一」名義の翻訳書であるケリー・グリーンソン『なぜか、「仕事がうまくいく人」の習慣』（PHP 研究所）刊行。この年のビジネス書ランキング年間第 3 位の大ベストセラーになる。
2002	51 歳	能ヶ谷町内に一戸建てを購入し、転居。
2007.8	56 歳	食道ガンと判明。川崎病院にて手術を受ける。
2010.4	58 歳	ドン・ウィンズロウ『犬の力』（角川書店）が第 1 回翻訳ミステリー大賞を受賞。
2012.3	60 歳	4 年半検診で、がんの転移・再発が確認される。放射線化学療法を受けることになり、4 月に 3 週間近く入院。
2014.1	62 歳	初孫が誕生。手ずからへその緒を切る。
2014.3		黄疸がひどくなる。ピーター・マシーセン『黄泉の河にて』（作品社）のゲラに手を入れ終わってから入院。入院中もジョン・ウィリアムズ『ストナー』（作品社）の翻訳、原書のリーディング、趣味の読書続ける。いったん退院するも 5 月初めに再度緊急入院。その後、自宅療養。
2014.6.21		自宅にて永眠。享年 62 歳。『黄泉の河にて』は見本を手にとり、表紙が気に入ったと話していたという。棺にも 1 冊納められた。
2014.9		死去の直前まで訳していた『ストナー』が刊行され、大きな反響を呼ぶ。
2015.4.12		『ストナー』が第 1 回日本翻訳大賞読者賞を受賞。
		参考資料
		インターネットサイト「出版翻訳データベース」
		『本の雑誌』（95 年 2 月号）「翻訳修行の冬」
		日本推理作家協会会報 2007.11
		『EQ』1995.7 ~ 1999.5

訳書リスト(1) 東江一紀 名義

書名	著者名	出版社	発行年
ラブ・ジャングル	ローズマリー・ロジャーズ	サンリオ	1983/6
ミストラルの娘(上)	ジュディス・克蘭ツ	サンリオ	1984/9
ミストラルの娘(下)	ジュディス・克蘭ツ	サンリオ	1984/9
恐怖の街角	ドン・ペンドルトン	ハーレクイン・エ ンタープライズ日 本支社	1985/1
書記長のクーデター計画	S・R・ピチェニック	新潮社	1986/3
レモ 第1の挑戦	ウォーレン・マーフィ&リチャ ード・サビア	サンケイ出版/扶 桑社	1986/6
V(上)	A・C・クリスピン	サンリオ	1986/6
V(下)	A・C・クリスピン	サンリオ	1986/6
ノーブルロード	ピーター・ローダー	集英社	1986/7
裏切りのゲーム	D・ワイズ	新潮社	1986/11
最後に笑った男(上)	フリーマントル	新潮社	1987/7
最後に笑った男(下)	フリーマントル	新潮社	1987/7
ミストラルの娘(上)	ジュディス・克蘭ツ	新潮社	1987/8
ミストラルの娘(下)	ジュディス・克蘭ツ	新潮社	1987/8
大統領ゲーム	R・ラム&A・グロスマン	東京創元社	1988/2
踊らされた男たち 大統領候補の系図を追い	ダンカン・カイル	新潮社	1988/2
ごみ溜めの犬	ロバート・キャンベル	二見書房	1988/4
技師クズネツォフの過去	ジェームズ・O・ジャクソン	新潮社	1988/8
一弾で倒せ!	ジェラルド・シーモア	新潮社	1989/1
六百ポンドのゴリラ	ロバート・キャンベル	二見書房	1989/3
ロリータは何歳だったか?	アラン・セイバースタイン	早川書房	1989/6
鱈のひと噛み	ロバート・キャンベル	二見書房	1989/10
狂気のやすらぎ	ポール・セイヤー	草思社	1989/11
ブリーディング・ハート(上)	マリリン・フレンチ	新潮社	1990/3
ブリーディング・ハート(下)	マリリン・フレンチ	新潮社	1990/3
オートム・タイガー	ボブ・ラングレー	東京創元社	1990/8
ライアーズ・ボーカー ウォール街は巨大な幼稚園	マイケル・ルイス	角川書店	1990/11
エリー・クラインの収穫	ミッチェル・スミス	新潮社	1992/1
氷の微笑	リチャード・オズボーン	扶桑社	1992/5

東江翻訳のベスト本を選べ！ インターネットサイト「翻訳ミステリー大賞シンジケート」より

その1・書評七福神篇

北上次郎

『罪の段階』上・下
リチャード・ノース・バタースン
新潮文庫

この小説にいたく感動した私は当時、リチャード・ノース・バタースンの次の作品の翻訳はいつ出るんですか、とお会いするたびに尋ねたことを思い出します。

霜月蒼

『ボビーZの気象・雑な人生』
ドン・ウインズロウ 角川文庫

三分の一ほど読んだところで驚愕したので。そこまでの全文章が現在形だったことに気づいて。あの衝撃。忘れられない。かくも自然な現在形の文章を日本語で紡ぐのは天才にしかできない。それが東江一紀氏だった。

千街島之

『殺人探兇』

フリーリップ・カー 新潮文庫

東江氏訳のフリーリップ・カーというタイトル、ハルトゲンター・シリーズが有名なが、敢えてノン・シリーズを。近未来サイコ・サスペンスと哲思と論議の組み合わせが印象的。

杉江松恋

『ごみ溜めの犬』

ロバート・キャンベル 二見文庫

最初に東江さんに注目した作品です。現在形で統一された文体、刑事や探偵ではなく住民の世話を焼く政党の地区班長が主人公という変な設定。翻訳者の技巧が冴えた一冊でした。

吉野仁

『アリンバー・ライジング』

ティム・ウィロックス 角川文庫

R・N・バタースンやドン・ウインズロウなど多くの傑作が並ぶ東江さんの訳書中、圧倒的なパワーで胸をわしづかみにされたのが、狂気に満ちた本作だ。感謝して合掌。

川出正樹

『ステーション』

マイケル・フラナガン 角川書店

「絵と言葉が、チェロの調べのように、深く、懐かしく、心の奥底を揺さぶる」という訳者あとがきの名文に付け加える言葉なし。架空の鉄道を巡るこの物語を埋もれさせたくない。

酒井貞道

『ストリート・キッズ』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

東江一紀さんの訳文は本当に素晴らしい。彼の手にかかれば、作品の魅力が行間から吹きこぼれる。真の名人だっと思う。だが彼はもういない。それがとても悲しい。

偽りの街	フィリップ・カー	新潮社	1992/6
エイリアン3	アラン・ディーン・フォスター	角川書店	1992/7
デイヴ・パリーの40歳になったら	デイヴ・パリー	集英社	1992/7
マネー・カルチャー	マイケル・ルイス	角川書店	1992/8
ストーン・シティ(上)	ミッチェル・スミス	新潮社	1993/8
ストーン・シティ(下)	ミッチェル・スミス	新潮社	1993/8
鮫とジュース	ロバート・キャンベル	文藝春秋	1993/10
砕かれた夜	フィリップ・カー	新潮社	1993/10
ストリート・キッズ	ドン・ウィンズロウ	東京創元社	1993/11
デモリションマン	リチャード・オズボーン	扶桑社	1994/1
デイヴ・パリーの日本を笑う	デイヴ・パリー	集英社	1994/2
ショールの女	シンシア・オジック	草思社	1994/3
密告者	ジェラルド・シーモア	福武書店	1994/6
ジェームズ・ディーン 破れた夢の道 その生涯、時代、伝説	ポール・アレクサンダー	近代文芸社	1994/9
コミック版 ファシズム (知的常識シリーズ4)	スチュアート フッド、リッツァ ジャンス	心交社	1994/6
屍肉	フィリップ・カー	新潮社	1994/11
五十年間の嘘	ルイス・ベグリイ	早川書房	1995/2
ベルリン・レクイエム	フィリップ・カー	新潮社	1995/11
グリーンリバー・ライジング	ティム・ウィロックス	角川書店	1995/9
罪の段階	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	1995/10
ヒトラーの相続人	S.J.マイケルズ	原書房	1996/5
自由への長い道(上) ネルソン・マンデラ自伝	ネルソン・マンデラ	日本放送出版協会	1996/6
自由への長い道(下) ネルソン・マンデラ自伝	ネルソン・マンデラ	日本放送出版協会	1996/6
女王陛下を撃て	ピーター・カニンガム	原書房	1996/7
呪われた血脈	ダンカン・カイル	原書房	1996/8
垂直の戦場	ジョセフ・ガーバー	徳間書店	1996/9
FBIが恐れた伝説のハッカー(上)	ジョナサン・リットマン	草思社	1996/10
FBIが恐れた伝説のハッカー(下)	ジョナサン・リットマン	草思社	1996/10
仏陀の鏡への道	ドン・ウィンズロウ	東京創元社	1997/3
殺人探究	フィリップ・カー	新潮社	1997/6
グリーンリバー・ライジング(文庫)	ティム・ウィロックス	角川書店	1997/7
マフィアの法則 人を操る37の方法	V.	アスペクト	1997/10

その2・翻訳ミステリー長篇篇

鈴木忠

『ストナー』

ジョン・ウリアムズ 作品社

貧しい農家に生まれた平凡な英文学教授の半生を、淡々とした筆致で描いて心に染みる作品。これが東江さんの遺稿になったという暗合にも思いを致さずにはいられませ

田口俊樹

『天の力』

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

強靱な文章でないと、これだけスケールの大きな作品の屋台骨の強度たりえない。もちろん原文あつてのことだが、この強靱な訳文、実に見事だつた。系アメリカ人の台詞の訳し分けにも感服。

越前敏弥

『フレシャス』

サファイア 河出文庫

(文庫化時に『フッシュ』(河出書房新社)

から改題)

十六歳の黒人女性を語り手とする文章の圧力的な方に、翻訳の魔術を感じた一作。

加賀山卓朗

『鮫とジュース』

ロバート・キャンベル 文春文庫

楽しかった本、学ばせてもらった本をあげれば切りがありませんが、忘れられない一冊は、ロバート・キャンベルの「機嫌な悪漢小説『鮫とジュース』」中身も訳も大好きです。

白石朗

『子供の眼』

リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫

代表作は『罪の段階』だが愛着があるのはこちら。小説巧者のサスペンスフルな語り口を一切損なわず、翻訳を意識させないエンターテインメントに仕立てた筆力に感服。

横山啓明

『ストーン・シティ』

『エリー・クラインの収獲』

ミッチェル・スミス 新潮文庫

最初に読んだ東江作品は、『エリー・クラインの収獲』句い立つような訳文に酔いしれました。同じM・スミス『ストーン・シティ』も過酷な世界をみことな日本語に。早すぎる死、ほんとうに残念です。

上條ひろみ

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

東江さん訳のウィンズロウ節はリズムのよさが癖になります。ニール・ケアリー・シリーズは全部好きだけど、本書は衝撃的な訳語でとくに印象に残っています。

東江一紀 名義 3

現代ミステリーの収穫(1)ケラーの療法	(アンソロジー)	扶桑社	1997/11
現代ミステリーの収穫(2)壁	(アンソロジー)	扶桑社	1997/11
ブッシュ	サファイア	河出書房新社	1998/2
エイリアン4 復活(文庫)	A.C.クリスピン	角川書店	1998/2
贖い	ロバート・キャンベル	原書房	1998/3
ダイアナ妃謀殺(上)	トーマス・サンクトン/スコット・マクラウド	草思社	1998/4
ダイアナ妃謀殺(下)	トーマス・サンクトン/スコット・マクラウド	草思社	1998/4
複製されるヒト	リー・M・シルヴァー	翔泳社	1998/5
デイヴ・パリーの笑えるコンピュータ	デイヴ・パリー	草思社	1998/6
ミステリアス・エロティクス: 恐怖と官能の物語	(アンソロジー)	扶桑社	1998/6
現代ミステリーの収穫(4)馬に乗ったケラー	(アンソロジー)	扶桑社	1998/7
殺人摩天楼	フィリップ・カー	新潮社	1998/8
馬と話す男 サラブレッドの心をつかむ世界的調教師モンティ・ロバーツの半生	モンティ・ロバーツ	徳間書店	1998/9
エサウ 封印された神の子	フィリップ・カー	徳間書店	1998/10
罪の段階(上)(文庫)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	1998/11
罪の段階(下)(文庫)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	1998/11
イエスの墓	リチャード・アンドルーズ、ポール・シェレンパーガー	NHK 出版	1999/3
ボビーZの気急ぐ優雅な人生	ドン・ウィンズロウ	角川書店	1999/5
高く孤独な道を行け	ドン・ウィンズロウ	東京創元社	1999/6
憂国のスパイ イスラエル諜報機関モサド	ゴードン・トーマス	光文社	1999/7
静けさと沈黙のなかで	ドリス・グランバック	角川書店	2000/1
レクサスとオリーブの木 グローバリゼーションの正体(上)	トーマス・フリードマン	草思社	2000/2
レクサスとオリーブの木 グローバリゼーションの正体(下)	トーマス・フリードマン	草思社	2000/2
エサウ 封印された神の子(文庫)	フィリップ・カー	徳間書店	2000/5
ニュー・ニュー・シング	マイケル・ルイス	日本経済新聞社	2000/8
シリコンバレーに行きたいか!	ポー・ブロンソン	翔泳社	2000/9
セカンド・エンジェル 血の黙示録	フィリップ・カー	徳間書店	2000/9
子供の眼	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2000/9
ステーション	マイケル・フラナガン	角川書店	2000/12
天才たちの誤算 ドキュメント LTCM 破綻	ロジャー・ローウェンスタイン	日本経済新聞社	2001/6

その3・各地読書会論

札幌読書会・榎本卓史

『ビッグ・トラブル』

デイヴ・パリー 新潮文庫

ウィンズロウやパターソンも大好きですが、著者の謝辞に敬意から東江さんの訳者あとかぎまでノリにのつてるデイヴ・パリーの『ビッグ・トラブル』も忘れがたい一作です。

仙台読書会・蒔野正徳

『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

素晴らしい翻訳作品を世に送り出していただき、ありがとうございます。心よりご冥福をお祈りいたします。

福島読書会・飛鳥宗司

『エリー・クラインの収穫』

ミッチェル・スミス 新潮文庫

ミッチェル・スミスを日本に華々しく解き放つてくれた東江氏。ヒロインであるエリーの「シヤム猫の泣き声のようなおなら」

は超弩級の翻訳だとどうでも信じて止まない。

金沢読書会・北田絵里子

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

『決まり〇玉』という遊び心ある訳語が燦然と輝いていますが、これはあらゆる配慮の行き届いた訳文中に投入されてこそ、このバランスは永遠の憧れです。

埼玉読書会・東野さやか

『殺しシユース』

ロバート・キャンベル 文藝文庫

ウィンズロウにするかパターソンにするかと迷ったけど、やはりこれ。登場人物ひとりひとりの描写がうまくて、とにかく楽しい犯罪群像劇。訳者あとかぎも楽しい。

千葉読書会・高橋知子

『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

印象深い訳書の数々。中でも『決まり金玉』のニールくんは忘れられません。東江さんの新たな名訳に出会えないのは淋しい

かぎりです。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

東京読書会・島村浩子

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

早すぎるご逝去が本当に残念です。先生ご自身の名訳はもちろん、門下生の方々のすばらしいお仕事に触れるたび、翻訳出版界における先生の存在の大きさを感じます。

西東京読書会・松井里弥

『フランキー・マシーンの冬』上・下

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

殺し屋と翻訳家、職種は違えど、フランキーと東江先生には相通じるものがあつたと思います。仕事には厳しく、人には優しく、頑固でもあり、純情でもあり……。甘々な男たちに感佩。

横浜読書会・岡本真吾

『天のむ』

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

序章から襲い掛かる圧倒的なパワーの渦に、

カリフォルニアの炎	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2001/9
ビッグ・トラブル	デイヴ・バリ	新潮社	2001/8
モルジブが沈む日：異常気象は警告する	ボブ・リース	日本放送出版協会	2002/9
最後の審判	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2002/8
子供の眼 (上) (文庫)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2004/2
子供の眼 (下) (文庫)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2004/2
ダーク・レディ (上)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2004/9
ダーク・レディ (下)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2004/9
最後の審判 (上)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2005/6
最後の審判 (下)	リチャード・ノース・パターソン	新潮社	2005/6
ウォーターズライドをのぼれ	ドン・ウィンズロウ	東京創元社	2005/7
最強ヘッジファンド LTCM の興亡 (文庫)	ロジャー・ローウェンスタイン	日本経済新聞社	2005/11
ライアーズ・ポーカー	マイケル・ルイス	バンローリング	2005/12
砂漠で溺れるわけにはいかない	ドン・ウィンズロウ	東京創元社	2006/8
ハイラム・ホリデーの大冒険 (上)	ポール・ギャリコ	ブッキング	2007/6
ハイラム・ホリデーの大冒険 (下)	ポール・ギャリコ	ブッキング	2007/6
ガーゴイル 転生する炎の愛	アンドリュー・デイビッドソン	徳間書店	2008/10
野望への階段	リチャード・ノース・パターソン	PHP 研究所	2009/1
犬の力 (上)	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2009/8
犬の力 (下)	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2009/8
ポーに捧げる 20 の物語	(アンソロジー)	早川書房	2009/12
ブレシャス (文庫/改題)	サファイア	河出書房新社	2010/4
世紀の空売り 世界経済の破綻に賭けた男たち	マイケル・ルイス	文藝春秋	2009/9
賢者たちの決断	ブリン・ゼックハウザー/アーロン・サンドスキ	徳間書店	2009/9
フランキー・マシンの冬 (上)	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2010/9
フランキー・マシンの冬 (下)	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2010/9
ブーメラン 欧州から恐慌が返ってくる	マイケル・ルイス	文藝春秋	2012/1
野蛮なやつら	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2012/2
最高の人生の見つけ方 オーガスタ伝説のキャディーマスター、フレディがぼくに教えてくれたこと	トリップ・ボウデン	日本実業出版社	2012/5
2050 年の世界—英『エコノミスト』誌は予測する	英『エコノミスト』編集部	文藝春秋	2012/8
これが物理学だ マサチューセッツ工科大学「感動」講義	ウォルター・ルーウィン	文藝春秋	2012/10
数学小説 確固たる曖昧さ	ガウラヴ・スリ&ハートシュ・シン・パル	草思社	2013/2

登場人物も読み手も飲み込まれていきます。麻薬戦争という凄惨なテーマですが、かけがえのない読書体験ができた作品です。

名古屋読書会・大矢博子

『ストリート・キッズ』

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウィンズロウ 創作推理文庫

『ストリート・キッズ』に明えまくり、『仏陀の鏡への道』に痺れまくり。嗚呼、わが青春のニール・ケアリー。あとにもさきにも『金玉』で泣かされたのはこれだけです。

関西読書会世話人一同

『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創作推理文庫

三年前の読書会、黄ばんでいたり真新しくつたりの『ストリート・キッズ』を繰りながら、恋や師弟や文学やハンバーガーについて歓談したことを追想し、感謝を捧げます。

福岡読書会・三角和代

『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創作推理文庫
これぞ文芸翻訳と感動し尊敬した一冊がドン・ウィンズロウ『ストリート・キッズ』。東江さんの訳文はわたしの憧れでした。心より「冥福をお祈りいたします」。

その4・連載・イベント担当有篇

三橋暁

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウィンズロウ 創作推理文庫

生意気な中に瑞々しき滲るる主人公、しなやかな物語、軽妙な語り口など、ウィンズロウの持ち味を引き出し、引き立たせた名訳。『ニール・ケアリー』シリーズは、東江一紀訳以外考えられない。

日暮雅通

『犬の力』

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

東江さんが下訳時代に搾取された相手の『ダメ師匠』は、エージェント勤務時代の僕のクライアアント。と知って以来、東江さんの本が売れるたびに喜んできた。これも

その一冊。

AKIRA

『ブレシャス (旧題ツシニ)』

サファイア 河出文庫

虐待され読み書きも出来ない主人公。言葉に対する意識の変化が文体で表現されるのですが、ひたすらその翻訳に圧倒されました。

堺三保

『砂漠で溺れるわけにはいかない』

ドン・ウィンズロウ 創作推理文庫

東江翻訳と言えば、なんといつも『ドン・ウィンズロウとリチャード・ノース・パターソンではないかと思うのですが、中でもウィンズロウのニール・ケアリーものの軽妙さが好きでした。ここでは完結編を捧げておきます。

鎌田三平

『レモ 第1の捕鯨』

ウォーレン・マーフィー リチャード・サビ

ア

東江一紀 名義 5

キング・オブ・クール	ドン・ウィンズロウ	角川書店	2013/8
ライアーズ・ポーカー (文庫)	マイケル・ルイス	早川書房	2013/10
最後の紙面	トム・ラックマン	日本経済新聞社	2014/3
普及版 ハイラム・ホリデーの大冒険 (上)	ポール・ギャリコ	復刊ドットコム	2014/4
普及版 ハイラム・ホリデーの大冒険 (下)	ポール・ギャリコ	復刊ドットコム	2014/4
黄泉の河にて	ピーター・マシーセン	作品社	2014/6
ストーン	ジョン・ウィリアムズ	作品社	2014/9
ブーメラン 欧州から恐慌が返ってくる (文庫)	マイケル・ルイス	文藝春秋	2014/9
フラッシュ・ボーイズ 10億分の1秒の男たち	マイケル・ルイス	文藝春秋	2014/10

訳書リスト(2) 榎井浩一 名義

書名	著者名	出版社	発行年
「遊び心」の経済学 あらゆるビジネスは娯楽へ進化する	マイケル・J・ウルフ	徳間書店	1999/12
ファストフードが世界を食いつくす	エリック・シュローサー	草思社	2001/8
エクソシスト・コップ NY心霊事件ファイル	ラルフ・サーキ	講談社	2001/11
アメリカを創ったベンチャー・キャピタリスト 夢を支えた35人の軌跡	ウダヤン・グプタ	翔泳社	2002/2
超大国日本は必ず甦える	ハドソン研究所	徳間書店	2002/3
ラスト・ダイヴ 沈黙の世界に挑んだ父と息子 その栄光と悲劇	バーニー・チョードゥリー	光文社	2002/3
世界生物兵器地図 新たなテロに対抗できるか	ウエンディ・バーナビー	NHK出版	2002/4
「成功おじさん」の最優先ルール	チャーリー・ジョーンズ	PHP研究所	2002/4
グレートゲーム・オブ・ビジネス 社員の能力をフルに引き出す最強のマネジメント	ジャック・スタック	徳間書店	2002/6
セールス王の教え 面白いほど変化がおきる、世界一現実的な仕事術	バリー・メイハー	PHP研究所	2002/7
人間をズバリ見抜く動物判断	ゲイリー・S・オーミラー	きこ書房	2002/9
1日を26時間にする、最強の時間活用術	ヴィンス・パネラ	PHP研究所	2002/10
ファストフードと狂牛病	エリック・シュローサー	草思社	2002/10
ワン・ミニッツ・ミリオネア お金持ちになれる1分間の魔法	ロバート・アレン他	徳間書店	2003/3
リーダーシップ	ルドルフ・ジュリアーニ	講談社	2003/4
なぜか、「仕事がうまくいく人」の習慣	ケリー・グリーンソン	PHP研究所	2003/4
だから、「仕事がうまくいく人」の習慣 その差は、整理力・デジタル力だったのか篇	ケリー・グリーンソン	PHP研究所	2003/6

サンケイ文庫

氏の名前を初めて意識した作品。氏のキャリアの初期の仕事なので、来る者は拒まずだったのかもしれないが、今になって考え直してみると、けっこう楽しんでやったのではないかという気がする。そういう人だよ。

芹澤忠

『獣者あとがき』(下) シン・ウィンズロウ 初訳 漢で測れるわけにはいかない』より

創元推理文庫

訳された作品はもちろん、作品の雰囲気に応じて自由自在に書き分けられる、ときにおちやめどときに骨太で滋味滋養たっぷり「読者あとがき」も愉しみでした。「校筆にいとまがなければ、ただの『ぎよ』だ」なんて……エンタテインメントの読者たるもの、読者に愉しんでもらえる機会は決して逃してはならない、教えていただいた気がしています。

佐竹裕

『黄泉の河にて』

ピーター・マシーセン 作品社

原文同様に研ぎ澄まされた訳文で、刊行予定のないまま訳し終えられると一篇ずつ訳稿を送ってくださった、個人的に思い入れのある短編集。生前最後に刊行されたこともまた感慨深いです。

若林踏

『犬の力』

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

『犬の力』を読んでいる時に感じた、全身の血が荒ぶるような感覚が忘れられません。あのような凄まじい小説に巡り合う機会を与えてくださったこと、心より感謝いたします。

その5・翻訳家篇

高橋英孝

『普及版 ハイラム・ホリデーの大冒険』

上・下

ポール・ギャリコ 復刊ドットコム

大好きなギャリコのデビュー作が大好きな東江さん訳で復刻！ 本當にうれしかった。東江さんも、囚人生活を終えて冒険の旅に

出たのかな。

吉澤康子

『黄泉の河にて』

ピーター・マシーセン 作品社

東江先生には、翻訳修行の仕上げをしていただきました。明解な説明と、言葉に対する熱い思いが忘れられません。本書は純文学の短編集で、翻訳後二十数年ののち、先生が亡くなる直前に刊行されたものです。

河野万里子

『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

本好きのニールと片腕の『父さん』の間に通うあたたかき、いきいきとした話のウィット、軽やかで知的なお訳——読書と仕事と人生を愛しつづけた東江さんの、笑顔のような一冊。

布施由紀子

『狂気のやすらぎ』

ポール・セイヤー 草思社

超大国日本は完全復活する	ハドソン研究所	徳間書店	2003/10
デフレとバランスシート不況の経済学	リチャード・クー	徳間書店	2003/10
生物・化学・核テロから身を守る方法	アンジェロ・アクイスタ	草思社	2003/10
ドリーム 小説篇 お金持ちになれる 1 分間の魔法	マーク・ヴィクター・ハンセン 他	徳間書店	2004/3
ドリーム 実践篇 お金持ちになれる 1 分間の魔法	マーク・ヴィクター・ハンセン 他	徳間書店	2004/3
金持ちと上手につきあう法 「ザ・リッチ」の不思議な世界へ	R・コニフ	講談社	2004/3
私たちは成功するようにできている	マリリン・タム	サンマーク出版	2004/5
このつまらない仕事を辞めたら、僕の人生は変わるのだろうか?	ポー・ブロンソン	アスペクト	2004/6
パターンを変えれば、きつとうまくいく!	チャールズ・S・プラキトン	PHP 研究所	2004/6
爆弾証言 すべての敵に向かって	リチャード・クラーク	徳間書店	2004/6
マイライフ クリントンの回想(上)	ビル・クリントン	朝日新聞社	2004/9
マイライフ クリントンの回想(下)	ビル・クリントン	朝日新聞社	2004/9
アレキサンダー大王 陽炎の帝国	ニコラス・ニカストロ	清流出版	2005/2
マイケル・ジャクソン 少年愛と白い肌の真実	ボブ・ジョーンズ	講談社	2005/6
文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの(上)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社	2005/12
文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの(下)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社	2005/12
人類が知っていることすべての短い歴史	ビル・ブライソン	NHK 出版	2006/3
図解 なぜか、「仕事があまくいく人」の習慣 世界中のビジネスマンが学んだ成功の法則	ケリー・グリーンソン	PHP 研究所	2006/4
沈黙の海へ還る ザ・ラスト・タイプ	バーニー・チョードゥリー	光文社	2006/8
MIT チームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略	スザンヌ・バーガー他	草思社	2006/9
世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す	ジョセフ・E・スティグリッツ	徳間書店	2006/11
幸せのちから	クリス・ガードナー	アスペクト	2006/12
人類最後のタブ バイオテクノロジーが直面する生命倫理とは	リー・M・シルヴァー	NHK 出版	2007/3
解決! いじめ撃退マニュアル 教室からネットまで、これで安心	ホセ・ポルトン他	徳間書店	2007/4
ロックフェラー回顧録	デイヴィッド・ロックフェラー	新潮社	2007/10
伝説のトレーダー集団 タートル流投資の魔術	カーティス・フェイス	徳間書店	2007/10
人生を料理した男—麻薬の売人からトップシェフへ	ジェフ・ヘンダーソン	アスペクト	2008/3
世界を不幸にするアメリカの戦争経済 イラク戦費 3 兆ドルの衝撃	ジョセフ・E・スティグリッツ	徳間書店	2008/5

カタトニー(緊張病)患者の独白。凍とたたみずみずしい筆致に衝撃を受けました。東江一紀先生三十七歳のときの訳書です。その非凡な才能には改めて驚かされます。

峯村利哉

「ストリート・キッズ」

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

下訳者として関わらせていただき、翻訳の楽しさと厳しさを教わりました。完本を読んだときの無力感は忘れられません。一作品としても教科書としても永遠のバイブルです。

柳沢伸洋

「ショールの女」

シンシア・オジック 草思社

美しく抑制の効いた文体が切なさを倍加させる。言葉の持つ力を改めて認識させてくれる一冊。すぐれた翻訳の役割とは、こういふ作品の紹介にあるのでは、と感銘を思えてしまう。

内藤文子

「デイヴ・バリーの笑えるコンピューター」

デイヴ・バリー 草思社

「The Onion」が出た。エ書かれた本だけど、パソコンに振り回される人間を笑いのめす精神は現役。その諧謔精神と親父ギャグに笑いつつ、遊びを支える訳文のキレにうなるのです。

那波かおり

「フレッシュ」

サファイア 河出文庫

九十八年初版時の書名は『フッシュ』。十六歳のハーレムの少女が読み書きを覚え、自尊心を獲得していく。主人公の一人称語り。成長と変化に圧倒される。体温と痛覚をもつ訳文。

バビロンの大金持ち	ジョージ・S・クレイソン	実務教育出版	2008/8
贗作王ダリ シュールでスキャンダラスな天才画家の真実	スタン・ラウリセン	アスペクト	2008/9
優等生ブアと劣等生リッチー頭のいいぼくが貧乏で、なんであのバカが金持ちなの？	ロバート・シェミン	徳間書店	2008/10
アメリカ後の世界	ファリード・ザカリヤ	徳間書店	2008/12
失われた聖櫃(アーク) 謎の潜在パワー	ローレンス・ガードナー	清流出版	2009/3
なぜか、「仕事うまくいく人」の習慣 4.0	ケリー・グリーンソン	PHP研究所	2009/3
借金大国 アメリカの真実	アディソン・ウィギン他	東洋経済新報社	2009/9
伝説のトレーダー集団 タートル流 投資の黄金律	カーティス・フェイス	徳間書店	2009/11
フリーフォール グローバル経済はどこまで落ちるのか	ジョセフ・E・スティグリッツ	徳間書店	2010/2
まだ科学で解けない13の謎	マイケル・ブルックス	草思社	2010/4
美しき姫君 発見されたダ・ヴィンチの真作	マーティン・ケンプ他	草思社	2010/6
聖杯の血統 イエスの隠された系譜	ローレンス・ガードナー	清流出版	2010/6
価格戦争は暴走する	エレン・ラベル・シェル	筑摩書房	2010/12
なぜ人は走るのか ランニングの人類史	トル・ゴタス	筑摩書房	2011/12
世界の99%を貧困にする経済	ジョセフ・E・スティグリッツ	徳間書店	2012/7
文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの(上)(文庫)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社	2012/12
文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの(下)(文庫)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社	2012/12
インフォメーション 情報技術の人類史	ジェイムズ・グリック	新潮社	2013/1
ファストフードが世界を食いつくす(文庫)	エリック・シュローサー	草思社	2013/6
加工食品には秘密がある	メラニー・ウォーナー	草思社	2014/4
人類が知っていることすべての短い歴史(上)(文庫)	ビル・ブライソン	新潮社	2014/10
人類が知っていることすべての短い歴史(下)(文庫)	ビル・ブライソン	新潮社	2014/10
ロックフェラー回顧録(上)(文庫)	デイヴィッド・ロックフェラー	新潮社	2014/11
ロックフェラー回顧録(下)(文庫)	デイヴィッド・ロックフェラー	新潮社	2014/11

そして最後にこの一節を

薄白く広がる原野に、人の痕跡をとどめるものといえば、嵐か潮流の気まぐれで埋めふさがれた水路の位置を示す傾いた棒杭だけだ。杭の先に、みすぼらしい姿の鵜がとまり、乾きかけた翼を風に向かって黒い十字架のように広げている。この古めかしい鳥が、生い茂るマングローブが、そして幾時代もの屍^{しかばね}を収めた白い泥灰土からかすかな息吹を立ちのぼらせる水面下の生物たちの気配が、パーケットの孤独と無聊^{ぶりょう}の思いをいっそう募らせた。

On the pale flats the lone trace of man was a leaning stake making some lost channel that a storm or shift of current had filled in. On the end of the stake perched a ragged cormorant, its drying wings held wide in a black cross against the wind. The archaic bird, the rampant mangroves, the hidden underwater life raising ghostly puffs from the white marl dust of ages of dead creatures, deepened Burkett's sense of solitude, of pointlessness.

『黄泉の河にて』より「黄泉の河にて」(ピーター・マシーセン 作品社)
 ピーター・マシーセンの短編『黄泉の河にて』の冒頭部分です。いまから24年前(!)、一気に読者を作品世界に引き込んでしまうこの語り口に読み惚れ、毎日お経のように唱えておりました。このリズム、この文体！ 原作の要素をひとつも取りこぼすことなく、一語一語を訳者の心で読み取り、訳者の言葉で表現して、パーケットという主人公の心情を描き出しています。みごとな情景描写に感嘆したとたんに、パーケットという人物がいきなり強烈な存在感をもって眼前に立ち現れます。情景描写とは、単なる風景の報告ではなく、それを見ている人の内面を描くものだということを教えられました。当時、先生はまだ39歳の若さでいらっしやいました。それを思うと、鳥肌が立ちます。昨年、先生の亡くなられる2日前に完本を手にしたときには、このくだりを読んで涙があふれました。原文とともにお届けします。(布施由紀子・翻訳家)

でも、あたしは、わけがわかるよーに話したいし、ほんののことを話したい。じゃなきゃ、いみないよ。うそとかくだらないことなんて、世のなかにはいっぱいあるんだから。

But I'm gonna try to make sense and tell the truth, else what's the fucking use? Ain' enough lies and shit out there already?

れんあいするて、どんなかんじだろ。いつもいつもいーつーもおもう。セクス、セツクス、たくさん知てる。セツクスいばい、いばい知てるけど、ともだちつくるて、どんなかんじだろ。あ、これ、おとこのともだちのこと。Wat it be like to bee in luv. I wondr this al the time ALL time all the time. I kno sex sex so much. I kno bout sex alot a lot wht it be like hav a fren, thas a guy I mean.

教育を受けていない少女、プレシャスが、ことばを覚えていく途中で書いた文。荒れまくる原文のニュアンスを忠実に反映しつつ、この上なく快適なリズムと力強さがある。

あたし、自分の将来のこと、いっぱい考える。考えること、いっぱいある。いつも考えてる。ミズ・レイン、あたしの脳みそ活発で、きらきらしてるって言う。

I think about my future a lot. I think a lot. All the time. Ms Rain say I am intellectually alive and curious.

物語終盤、プレシャスの言葉は、どんどん豊かになってゆく。

訳書リスト(3) その他の名義

名義	書名	著者名	出版社	発行年
河合衿子	ひとり旅	ニコラ・ウエスト	ハーレクイン	1984/8
河合衿子	愛をなくした場所	エリザベス・オールドフィールド	ハーレクイン	1985/2
河合衿子	愛の森	モーラ・マクギブニー	ハーレクイン	1985/8
河合衿子	モニカの真実	アンドリュー・モートン	徳間書店	1999/5
河合衿子	クリントンとモニカ わたしが愛した大統領	アンドリュー・モートン	徳間書店	2004/9
菜畑めぶき	マハーバーラタ戦記 賢者は呪い、神の子は戦う	マーガレット・シン普森	P H P 研究所	2002/12
菜畑めぶき	わたしたち、うまくいくかも Dedicated to 30	ジュディス・ヴィオースト	武田ランダムハウス ジャパン	2004/6
菜畑めぶき	結婚記念日—Wondering 40	ジュディス・ヴィオースト	武田ランダムハウス ジャパン	2004/6
菜畑めぶき	たぶんしあわせ Forever 50	ジュディス・ヴィオースト	武田ランダムハウス ジャパン	2004/6
菜畑めぶき	晩恋 Suddenly 60	ジュディス・ヴィオースト	武田ランダムハウス ジャパン	2004/6
柚木しのぶ	幸せな結婚はパンケーキの匂いがする	モラグ・ブランティ	徳間書店	2007/8
泊山梁	ジェニファー・ガバメント	マックス・バリー	竹書房	2003/12
泊山梁	スケアクロウ 死闘!南極基地を防衛せよ Vol.1	マシュー・ライリー	武田ランダムハウス ジャパン	2004/7
泊山梁	スケアクロウ 死闘!南極基地を防衛せよ Vol.2	マシュー・ライリー	武田ランダムハウス ジャパン	2004/8
泊山梁	スケアクロウ 死闘!南極基地を防衛せよ Vol.3	マシュー・ライリー	武田ランダムハウス ジャパン	2004/9
泊山梁	アイス・ステーション 上	マシュー・ライリー	ランダムハウス講談社	2006/8
泊山梁	アイス・ステーション 下	マシュー・ライリー	ランダムハウス講談社	2006/8

東江翻訳の真骨頂！ 名訳・珍訳集

練りあげた日本語 まずはことばの巧みさ、美しさをひたすら
味わう。

パジェットはかすかな嘲笑のとげを言葉にまぶした。

Paget lent the last three words a faint sardonic edge.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

火花をして飛ばしめよ。鷲をして舞わしめよ。

Let the sparks fly. Let the eagles feast.

『カリフォルニアの炎』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

月明かりのもと、長刃の^{マチェーテ} 鉈 が銀色の光跡を描いて一閃する。

The machete is a silver flash in the moonlight

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

恋し初めた相手は恋し遂げた相手とは違う人間であること。そして、恋は
終着点ではなく、一人の人間が別の人間を知ろうとするその道筋で
あることを。

that the person one loves at first is not the person one loves at last,
and that love is not an end but a process through which one person
attempts to know another.

『ストーナー』(ジョン・ウィリアムズ 作品社)

しけた、しがない、しみったれ。

Cheap chump change.

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

Ch- の頭韻を写しとりながら、意味もたまたみかけている。

「ヒマラヤの^{ひな} 鄙に、^{ひねもす} 終日ひらひらと雪はひた降る」

"The rain in Spain falls mainly in the plain."

『ウォータースライドをのぼれ』(ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫)

ミュージカル映画『マイ・フェア・レディ』に出てくる歌の歌詞 "The rain in Spain stays mainly in the plain" が原典。下町訛りを矯正するために作られた、ai の発音を「アイ」から「エイ」に直すための稽古用の一文なのですが、『ウォータースライド……』に登場するブルックリン育ちの娘ポーリーは、「ひ」がうまく言えず、「あの人」が「あぬ人(しと)」になってしまう(という日本語訳における設定)。だからこれは、「ひ」を練習するための「あめんぼ赤いなあいうえお」。スペインじゃなくて、ヒマラヤ。雨じゃなくて、雪。しかしこれ以上の「原文どおり」があるでしょうか。みごとに韻が踏まれ、情景としてもすごく美しい。(那波かおり・翻訳家)

新たな領域への挑戦——映画化もされた『プレシャス』より。

東江一紀は、よく生徒に、「原文に自分の能力を引き出してもらおうつもりで訳出する」ことを説いていた。ひとりの少女が、読み書きを教えてくれる先生との出会いで、豊かな感情と才能を目ざめさせていく様を描いた『プレシャス』の翻訳は、訳者にとっても、みずからの新たな能力を目ざめさせる作業だったにちがいない。

出典はいずれも『プレシャス』(サファイア 河出文庫)より。

ときにはあえて硬質に 無生物主語や名詞中心構文をわざと
用いて、衝撃を伝える。

瞬間的な憎しみが、わたしに引き金を引かせた。

All at once, I hated him enough to shoot.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

答えがメアリの口から飛び出すのをためらっているみたいに、また間があいた。

Another silence, as if Mary could not bring herself to answer.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

原文の主語はメアリだが、逆転の発想。

その体の構えには、眠っているときと違って、ほぐれようのない静止の硬さが
あった。

His posture had an unalterable finality that sleep lacks.

『数学小説 確固たる曖昧さ』(ガウラヴ・スリ&ハートシュ・シン・パル 草思社)

主人公の少年時代に、祖父が亡くなった場面。

言葉遊びを生かす——意味だけでなく、音や言葉遊びの面白さも
伝えなくてはならないとき、東江一紀は、燃える。

避けて通れない“闘争か逃走か”の葛藤

Your basic Fight v. Flight moment.

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

家じゅうの窓から吐き出された光の束が、闇に奥行きを与え、飾り格子の
模様をゆるやかな雪のタペストリーに織り込んでいた。

The wreathed light from the windows gave body to the darkness,
breathing tracery into the slow arras of snow.

『黄泉の河にて』より「センターピース」(ピーター・マシーセン 作品社)

『ストーナー』と「センターピース」の一節、ただただ美しい。

表情を訳す 表情の描写は、登場人物の人となりや場面の
リアリティをきわだたせる。

白くさわやかで臍^{ろう}たけた笑みがテリの顔にはじけ

As her grin cracked, clean and white and sharp

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

視線をもぎ離すのに、しばらくかかった。

It took a moment for Sharpe to turn from Caldwell

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

「臍^{ろう}たけ」「はじけ」「もぎ離す」が東江節。

そいつの青ざめた阿呆^{あほうづら}面に浮かぶ 啞然^{あぜん}悄然^{しょうぜん}茫然^{ぼうぜん}自失^{じしつ}の表情

the dazed befuddled expression on that pasty stupid face

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

微笑^{ほほえ}むべきかどうか、口もとの筋肉が迷っていた。

his mouth teetering on the edge of a smile.

『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

表情が目^めに浮かぶ。

会話の妙 登場人物のやりとりでキャラクターと関係性を描きだす。

「好きだよ、父さん」

「おれの魅力には勝てんよ、坊主」

"Love you, Dad."

"How could you help it, son?"

『ストリート・キッズ』(ドン・ウィンズロウ 東京創元社)

実の親子以上に深い絆で結ばれたニールとグレアムのやりとり。

「なぜ、そんなことが言えるんだ？」

「御身、ボビーZなればなり」

"How do you know?"

"Because you're Bobby Z," One Way says.

『ボビーZの気怠く優雅な人生』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

ラグーナビーチのいかれとんび、正気ならざる世界へ行ったきり戻ってこられない男、ワンウェイのせりふが、文語調で仕立てられている。文語調なのにすっとぼけた味わい。それでいて、ホームレス詩人の清廉も感じさせる。

クリエイティブな罵倒語、卑猥語

決まり金玉

Fuck yes.

『仏陀の鏡への道』(ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫)

あまりにも有名な決めぜりふ。

ざけんな。

Fuck you.

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

「おしょんしょん、ちびりそう」

"I've got to pee."

『ウォータースライドをのぼれ』(ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫)

ひどいブルックリン訛りで、ニールに英語を習うことになるボリーの台詞。ぶっとんだ創作訛りが衝撃的。

「このでち棒か、与太郎」

"This cock, cabron?"

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

「あんた、男ぶりが三枚ほど落ちたな」

"You look like shit."

『犬の力』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

なんとも洒脱な言いまわし。

総身に知恵が回りにくそうな

big stupid

『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

「大男、総身に知恵が回りかね」という言いまわしをうまく生かしている。

皮肉のたっぷりこもった魚声で、つまり神経を魚で擦るような声で

in a very sarcastic fish voice

『デイヴ・バリーの笑えるコンピュータ』(デイヴ・バリー 草思社)

バス釣りシミュレーションソフトの説明。fish voice がこんな具合に訳されようとは、デイヴ・バリーも思うまい。